



中川 牧三
 Mr. Makizo NAKAGAWA
 1902.12.7～2008.3.18
 日本イタリア協会
 イタリア声楽コンクール
 創始者



「イタリア声楽コンクール」について

「イタリア声楽コンクール」は、創始者日本イタリア協会初代会長Mr.中川牧三が永年をかけて培ったイタリア音楽界との「信用と絆」を生かし、トップレベルの声楽の技術を日本に根付かせるために活動を重ねて参りました。

音楽家としての正しい「導」を常に意識し、音楽を愛し本物を追求する精神を重んじ、世界に通じるレベルに育てることを目標にしています。

音楽の基礎、基本、といわれる声楽「歌」技巧の芸術的重要性を広め、正統なベルカントを継承し伝えたいという強い信念を貫いています。

半世紀に亘りコンクールの入賞者、入選者をはじめ多くの音楽家(声楽のみならず弦やピアノも含む)を、ミラノ・ヴェルディ国立音楽院、シエナ・キジアーナ国立音楽院、ボローニャ・マルティニ国立音楽院はじめ、歴史と伝統のある全国各地のイタリア国立音楽院(授業料免除)へ導き留学の途を開いてまいりました。

半世紀をかけたその成果は今、芽を出し、花や実をつけ、彼らのみならず、優秀な弟子や孫弟子、曾孫弟子達が育ってきています。

近年はイタリアへ留学を希望する若者達が急増し、五線譜や鍵盤楽器、バイオリンなどの弦楽器発祥の地ならではの音の響きや感性を重んじるイタリアの教育に魅せられています。

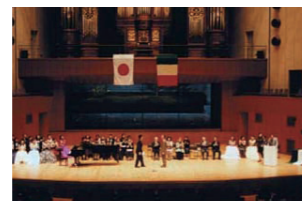
本コンクールは、そつのない完成度で「日本一」を選ぶというよりも、発声の方向性やマテリアルや心の表現を重視し、本場イタリアへ送って大きく育てて頂くことに力を注いでまいりました。

本選会の審査は国際水準で行うために、内外一流の演奏家やイタリア国立音楽院総裁や学長、指揮者、演出家等、錚々たる先生方を毎年特別審査員として招聘してまいりました。

イタリア国立音楽院と長年に亘る信頼関係で結ばれてきたコンクールは世界でも他に例はありません。

1930年代、ドイツ、イタリア、アメリカへと留学し、クラシック黄金時代に世界最高峰の音楽の神々と云われた指揮者やバイオリニスト、歌手達から直伝を受け、バイオリン、指揮、声楽・オペラ・音楽学と、多岐に精通し、古い友情を大切にしたマエストロ・中川の特徴が生かされたものと存じます。

皆様のご支援を賜りながら一徹な精神で続けてまいりました本コンクールは、創始者の使命感と本物志向の精神を引き継いで、昔も今も、そしてこれからも、音楽を目指す人の「希望の星」であり続けたいと存じます。



東京芸術劇場



アニエツリホール



イタリア大使館

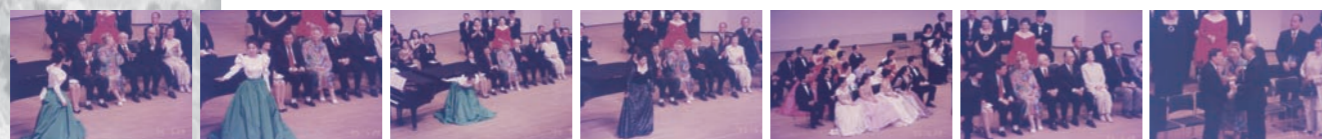


すみだトリフォニーホール



2013年7月 イタリア世界文化遺産 国際フェスティバル芸術祭

1995 新宿文化センター



ミラノ大賞/森麻季・シエナ大賞/畔柳幸代・主審査員/Mr.中川牧三, Mr.アッパード, Mr.デューク, Mr.チャーゴフ, Mr.伊藤京子, Mr.五十嵐喜芳, Mr.小野光子ほか

Message

西洋音楽の揺籃の地であるここイタリアは、音楽を学ぶ若い人たちにとっては、憧れの場所と言えるでしょう。オペラ歌手や楽器奏者を目指すのであれば、いつかはイタリアに留学したい、イタリアで演奏してみたいと考えることと思います。日本イタリア協会の「イタリア声楽コンクール」は、そのような若い人の夢を叶えるコンクールであります。

日本イタリア協会を創設された中川牧三先生は戦前からイタリアオペラを学ばれ、戦中・戦後を通じてイタリアオペラの日本への紹介と音楽活動を続け、その生涯を日本における西洋音楽文化の発展に尽くされた方です。中川先生が普及に努めたイタリアオペラは現在立派に日本に根付き、その裾野は大きく広がっています。中川先生はまさに日本とイタリアのオペラ交流の先駆者だと言えるでしょう。

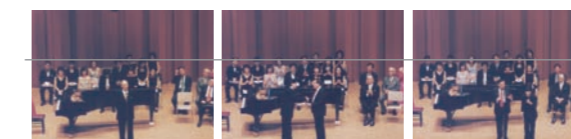
音楽は、国境を越えて人と人を結びつけ、心と心とを結びつけるものです。ここイタリアで、日々多くの音楽を愛するイタリア人や日本人と接していると、ひしひしとそのことを実感します。「イタリア声楽コンクール」を通じ、多くの日本の若い人が、イタリアと日本との音楽を通じた新たな架け橋になっていくことを願ってやみません。

河野 雅治



河野 雅治
 駐イタリア日本国大使

2000 紀尾井ホール



Mr.中川牧三
 中島健一郎氏 毎日新聞社・常務取締役
 Mr.アッパード, Mr.カッリージ
 ミラノ大賞/中島康晴
 山田宏氏 (株)松下電器産業社文化部長

日本とイタリアとの音楽の懸け橋として
その生涯を捧げた日本イタリア協会創始者
マエストロ 中川 牧三

フルート・ベンガラ
ピンデミット、
カールフレッシュ、
マスカーニ、
トスカニーニなど
歴史上に燦然と輝く巨匠に直接学び、

イタリアの至宝
大プリマドンナ レナータ・テバルディ、
名テノール マリオ・デル・モナコをはじめ、

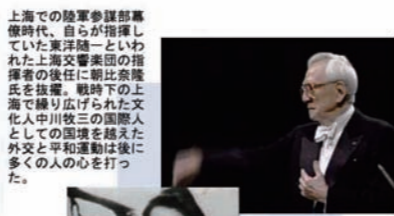
トゥーティ・ダルモンテ
アレッサンドロ・ジリアーニ、
ジーノベーキ、
ジュゼッペ・タッディ、
カルロ・ベルゴンツィ…。あまたの人物と
家族同様の旧知の友好を深めると同時に
数多くの若き音楽家を自らイタリアに送り育て、
日本クラシック界の向上と普及に努めた。

そして今なお、
マエストロの積み重ねてきた強い「絆」は
国立音楽院への留学支援や
イタリア世界文化遺産での特別演奏会、
著名音楽家を招聘してのマスタークラスなど、
若き日本音楽家たちが世界に飛翔く道標として
その大きな功績を残し活かされている。

平成の称号と同時に平成元年「日本イタリア協会」と改称。現在に至る。
初代副会長 朝比奈隆（指揮者）は、協会発足以来2001年12月29日逝去に至る迄、本協会の副会長
を担う。役員の方々は戦前からの活動に参加している。



歩けばまだ爆撃の後の灰が舞い上がる戦後まもない頃、京都、大阪、滋賀、神戸、奈良など関西一円でイタリアオペラを初演。
マエストロナカガワが関西で最初に初演したオペラは、スカラ座養成所留学時代に当時の
大作曲家マスカーニから直に伝授されたオペラ「カヴァレリア・ルスティカーナ」。
翻訳から演出、指揮、歌唱指導に至る迄すべて一人でこなした。写真左端は弟子の五十嵐
喜芳氏



上海での陸軍参謀部専
属時代、自らが指揮し
ていた東洋楽一といわ
れた上海交響楽団の指
揮者の後任に朝比奈隆
氏を抜擢。戦時下の上
海で繰り広げられた文
化人の中川牧三の国際人
としての活躍を踏まえ
外交と平和運動は後に
多くの人の心をつっ
つた。



時折中川家を訪れ
る伊藤政雄氏の若
かりし頃。京都京
都をこよよ愛した。



スカラ座を総立ちにさせた黄金時代の大
プリマドンナ・レナータ・テバルディ

半世紀以上の親友
ジュリエッタ・シミオナート
(シミオナート宅にて)

リナータ夫人急逝直後、ベッザロのマリオ・
デル・モナコ邸

ミレラ・フレニとティート・ゴッピ国際
コンクールの審査にて。

G.ローレルとP.ドミンゴ
(メトロポリタンオペラ
に招聘に駆け付けた中川
撮影)

カルロ・ベルゴンツィとレナー
タ・テバルディ
ヴェルディコンクールの審査の
合間に。(中川撮影)

久しぶりの再会
レナータ・スコットとマリオ・デル・モナ
コ国際コンクールにて

1984年4月、世界の大プリマドンナ・レナータ・テバルディを日本へ招聘。東京
と大阪で夢の公開レッスンを実現。大巨匠の来日に全国の音楽家やオペラファンはと
きめき、比類のない完璧なベルカントの女神による指導に感動した。(写真左上)

日本イタリア協会
ASSOCIAZIONE ITALO-GIAPPONESE
1966年4月28日に創設、発足。

創始者中川牧三 (Mo. Makizo NAKAGAWA) による大正末期からの長年に亘る活動と業績を継承する形で、
1966年4月28日「関西日伊音楽協会」の名称で発足。

日本で初めてのNHK全国放送。遺影の
公開。ラジオ放送を通じて日本の中心地を
めぐり「名曲」を伝える活動。戦後、京
都で音楽家を設立。日本で初めての自
演劇を上演。

1962年、東京にラ
ジオ放送局「NHK
ラジオ第2放送局」を
開設。この放送局に
て「名曲」を伝える
活動。戦後、京
都で音楽家を設立。
日本で初めての自
演劇を上演。

全国に流れる生放送の真の音は当時の人の心をつつた

我が国に於けるクラシック音楽の基盤として戦前よりオペラ・オーケストラ・合唱・吹奏楽・映
画音楽の幅広い分野においての基盤作りを貢献し、それらの以後の活動に及ぼした影響は大
きい。現在はベルカント普及運動を柱に日本のクラシック界のレベルの向上に尽くした。

マエストロ中川牧三氏が初代会長を輝かしく務められた日本イタリア協会と初めてご協力
させていただいてから、19年も時の流れが経ちました。その間私は、「G・バッティスタ・マルティ
ニ」ボローニャ国立音楽院の学長として、いつも有意義で実りある仕事に携わらせていただ
き、奥行きのある重要な音楽プロジェクトで一緒でできました。こうしたことは、マエストロ中川
氏の努力、情熱、意志とプロ精神、そして後に総務委員長を務められました中川くにご先生の
積極的な活躍の賜でございます。おかげさまで、日本イタリア協会とイタリアの公私それぞれの
機関との文化交流は、ますます活発に発展してまいりました。とりわけミラノ、ヴェネツィア、
ローマ、ジェノヴァ、ヴィチエンツァ、ヴェローナ、シエナ、ボローニャ、フィレンツェといったイタリア
諸都市の国立音楽院との関わりには、眼を見張るものがあります。マエストロ中川氏とくにご
総務委員長は、バイタリティーに溢れた魅力ある企画をいくつも進められ、若い世代の才能
豊かな音楽家や若いホープを筆頭に、多くの聴衆の関心を集められました。音楽やムジカ
アルテのマスタークラスやコンコルソ、そしてヴィチエンツァのテアトロ・オリンピコで行われる
演奏会は、イタリアの音楽界と国立音楽院にとって、大事な恒例行事としてますます重要度を
増しております。有名な指揮者、教授、作曲家、音楽家や演奏者が毎年数多く参加し、音楽
文化の発展に具体的に寄与しております。

日本イタリア協会への具体的かつ理解を持った支援が今後ますます大きなものとなります
ことを願っております。とりわけ、発起人の中川くにご理事長を始めとして、この歴史ある優れた
協会の発展のために献身的に尽力されている皆さまが、奨励され支援を受けられることを
大いに期待しております。

カルミネ・カッリージ

Sono trascorsi ormai 19 anni da quando è iniziata la collaborazione con l'Associazione
Italo-Giapponese allora brillantemente presieduta dal Maestro Makizo Nakagawa. In
questi anni, in qualità di Direttore del Conservatorio di Musica "G. Battista Martini" di
Bologna, ho avuto modo di collaborare per un sempre più utile e proficuo lavoro e per
progetti musicali di grande rilievo e spessore. Tutto ciò grazie all'impegno, alla passione,
alla volontà e professionalità del Maestro Nakagawa e poi alla partecipazione attiva e
concreta della Maestra Cunico Nakagawa.

Sono migliorati e si sono sviluppati sempre di più i rapporti culturali, gli scambi con le
istituzioni pubbliche e private, scambi di grande interesse tra l'Associazione
Italo-Giapponese con l'Italia, in particolare il coinvolgimento di numerose ed importanti
città italiane come Milano, Venezia, Roma, Genova, Vicenza, Verona, Siena, Bologna, Firenze
ed altri Conservatori di Musica.

Il Maestro Makizo Nakagawa e la Signora Cunico hanno sempre dato e continuano a dare
grande impulso e vivacità ai progetti coinvolgendo sempre il grande pubblico ed in special
modo giovani talenti e giovani promesse.

Lo studio del "Bel Canto" ed i concorsi di MusicArte per tutti gli strumenti, i Concerti al
Teatro Olimpico di Vicenza, sono diventati appuntamenti sempre più importanti per l'
Italia e per i Conservatori italiani. Ogni anno sono coinvolti grandi direttori d' orchestra,
professori, compositori, grandi interpreti di canto e di molti strumenti che contribuiscono
concretamente allo sviluppo della cultura musicale.

Invito tutti a sostenere l'Associazione Italo-Giapponese sempre con più convinzione e
concretezza ed in particolare e' necessario incoraggiare e sostenere gli autori e promotori
principali a partire dalla Presidente Signora Cunico Nakagawa e tutti coloro che
collaborano con grande impegno e passione per lo sviluppo e l'affermazione della nobile e
storica Associazione.

Carmine Carrisi



カルミネ・カッリージ
M^o. Carmine Carrisi

日本イタリア協会
特別顧問・運営委員
元ボローニャ国立音楽院学長



アルベルト・クピード
Mo. Aluberto CUPIDO

世界の主要歌劇場で活躍
日本にオペラブームを巻き起こした名テノール
秘宝イタリアオペラベルカント発声法伝承に尽力
優秀な歌手達を育成輩出
来日審査委員・日本イタリア協会特別委員

黒田 安紀子
Ma. Akiko KURODA

第1回イタリア声楽コンクール
【シエナ大賞】
来日審査委員・日本イタリア協会特別委員

マエストロ中川牧三が創始されたこの歴史あるコンクールの審査員として、今年も私をお招きいただいたことを、たいへん光栄に思っております。予選を見事パスした若手歌手や演奏家の中から、この本選で優勝者を選ぶという名誉かつ責任ある役目をいただくにあたり、公正・公平を期すことを誓います。より優れた表現力、技術力、そして素質を発揮する参加者を見極めるためにも、長年にわたって私が各地の劇場で培ってきた経験、そして講師として積んできた経験の両方を十分に生かしてまいる所存です。

さて、参加者の皆さまには、心よりエールを送ります。これは私見ではありますが、自己批評をしながら一所懸命に目標を目指していれば、決して優勝者だけではなく、どの参加者にとっても実りある明るい音楽の将来が待っているはずで。こうして皆さまへのご挨拶を綴っておりますと、2011年にイタリアのサンタ・マルゲリータ・リグレヤラパッコなどで行われた(このコンコルソから翔びたった)日本人による素晴らしい演奏会、あの大成功が思い出されます。幸運にもあの場に居合わせた聴衆の記憶には今なお興奮とともにとどまっていることでしょう。改めて皆さまのご健闘を祈念いたします。

アルベルト・クピード

mi accingo nuovamente ad essere membro della giuria che sceglierà i vincitori tra i giovani cantanti e strumentisti che hanno desiderato mettersi in luce prendendo parte alle selezioni preliminari di questo storico concorso fondato dal maestro makizo nakagawa. sono profondamente felice e grato di essere stato invitato a ricoprire questa prestigiosa e delicata funzione che mi vedrà assieme ai miei colleghi impegnarmi con equilibrio correttezza ed equità per individuare tra tutti i concorrenti coloro che mostreranno le migliori doti tecniche e interpretative unite a quella imponderabile e fondamentale del temperamento artistico. la mia esperienza maturata in lunghi anni in numerosi teatri del mondo e quella di docente che vivo attualmente saranno sicuramente un utile supporto a questo scopo. nel porgere a tutti un caloroso in bocca al lupo ricordo comunque che a mio giudizio, non solo ai vincitori, ma ad ognuno dei partecipanti potrà essere riservato un concreto se non addirittura radioso futuro artistico, a condizione che lo desiderino o meglio lo vogliano con tutte le loro forze ed il loro senso autocritico. a questo proposito desidero ricordare i meravigliosi concerti in italia a santa margherita ligure e rapallo dove si sono esibiti tutti i componenti del tour musicale 2011, riscuotendo un tale successo che ancora oggi viene ricordato con emozione da coloro che hanno avuto la fortuna di assistere a tali eventi. un saluto dal profondo del cuore.

alberto cupido

ミラノ国立音楽院に留学。スカラ座のオペラ研修所卒業。トウーランドットのリュエでマントヴァ（イタリア）デビュー。ブッセートヴェルティコンクールRAIイタリア国立テレビのブッチーニコンクール入賞。続いて数多くの蝶々夫人を、イタリアを始めヨーロッパ諸国に出演。その間、ラ・ボエームのミミをスカラ座で抜擢され歌わせて頂くことが出来ましたのも総てこの「イタリア声楽コンコルソ」シエナ大賞から始まりました。この賞をいただき渡伊。その後の私の音楽人生にチャンスと幸福がもたらされたのもこのコンクールの御蔭でいくら感謝しても感謝しきれません。ですから後に続く若い歌手達もこのコンクールで優勝し十分な技術と表現力、音楽性を育て、1人でも多くの日本人が国際的なアーティストとして活躍する様になることを心より望んでやみません。中川牧三先生、本当に有難うございました。

一昨年には中川くにご先生御協力の下、コンクールの器楽部門・声楽部門の優秀な入賞者を招待しジェノヴァ近郊のサンマルゲリータとラパッコでコンサートを開催し大好評の内に終り、観客は大変感動されて今でも話題になっています。若い同胞の熱演を目のあたりにしてとても誇らしく涙がこぼれたのを覚えております。日本イタリア協会とコンコルソの益々の発展を心より祈りつつ…

黒田 安紀子

まず、理事長中川くにご様に、グランマエストロ中川牧三逝去後、5年半に及ぶ懸命で地道なご尽力とその多大なる功績に拍手を送りたいと思います。とりわけ、コンコルソ MusicArte(ムジカ・アルテ・コンクール)を創始された事は最大の業績であると思います。このコンクールには演奏家や歌手たちが年齢を問わずに参加し、優勝者はじめ入賞者はイタリアの歴史ある有名なオペラハウスや世界文化遺産のステージに立つ事ができるのです。

なんと素晴らしい文化体験でしょうか!!
音楽について驚くほど博識でいらした偉大なるマエストロ中川牧三は、イタリアの有名歌手たちを初めて日本に招聘し、オペラ公演を開催されました。その後も、イタリアのベルカントを愛していらしたマエストロは、普及育成に尽力され日本の若手歌手たちに本場で学ぶ機会を与えようとConcorso Lirica Italiana(コンコルソ・リリカ・イタリアーナ)「イタリア声楽コンコルソ」を創始されました。今こうして「イタリア声楽コンコルソ」と「コンコルソ MusicArte ムジカアルテ」というふたつの名高いコンクールが存在するのは、ひとえに中川くにご様のおかげです。来年の3月18日で、グランマエストロが亡くなられてからもう6年になります。私がマエストロ中川牧三を存じ上げていたことは、改めてとても光栄なことでありました。また、愛すべき中川くにご様と仕事を一緒にさせていただいていることは、私にとってたいへん楽しみなことであり刺激を受けています。2014年も、才能に恵まれた素晴らしい演奏家や歌手の方々を発見することができる一年になりますよう祈ってやみません。

マルチェラ・レアーレ

My heartfelt congratulations go to Presidente Kuniko Nakagawa for her continue achievements in the past five years, a half in creating the first competition MusicArte. MusicArte enables instrumentalists and singers without age limit to participate together. Then the winners of the competition are able to perform in the most historic Opera houses and World Cultural Heritage of Italy. A magnificent cultural experience. It is because of the great Maestro Makizo Nakagawa with his amazing and profound knowledge of music to be the first ever to invite the most famous Italian opera singers to perform in Japan. His love for Italian bel canto made it possible to create the Lirica Italiana Voice Competition giving the precious opportunity for young singers to study bel canto in Italy. Now thanks to Kuniko Nakagawa we have in Japan two prestigious competitions: MusicArte and Lirica italiana. What a marvelous gift! It was an honour and privilege to have known Gran Maestro Makizo Nakagawa. March 18 is almost six years of his demise. Working with Carissima Kuniko Nakagawa is a gran pleasure and an inspiration for me. May 2014 be another year of discovering special talented musical artists and singers.

Mercella Reale

Marcella Reale



マルチェラ・レアーレ
Ma. Marcella Reale

世界の主要歌劇場で活躍
日本においては、
新国立劇場初代最高コーディネーター
長年に亘り東京芸術大学はじめ日本全国に亘る
主要音楽大学教授・特任教授を務める
数多くの優秀な歌手や学生を育成・指導・輩出
日本イタリア協会専務理事

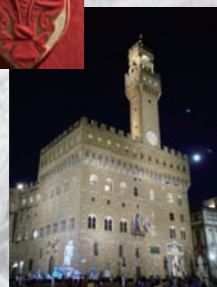


ルチアーノ・アルベルティ
M^o. Luciano ALBERTI
日本イタリア協会
特別顧問・運営委員
元シエナ・キジアーナ国立音楽院学長
演出家・音楽学者

ジャンニーナ夫人
Sig. Giannina ALBERTI



2013年7月、
ヴェッキオ宮にて...



2001 東京芸術劇場



M^o. バコーチェビッチ 旧ユーゴスラビア 国立芸術大学学長
M^o. カッリージ ボローニャ国立音楽院 学長
中島健一郎氏 毎日新聞社・常務取締役
森信之氏 (株)松下電器産業 社会文化部長
イタリア大使名代
M^o. 田島好一

日伊文化交流の一環として、日本イタリア協会理事長の中川くにこ先生が毎年各市と共催して開催されている若手演奏者によるコンサートですが、今年はフィレンツェでも行われました。

非常にレベルの高い素晴らしい音楽が、フィレンツェの中心に位置するヴェッキオ宮殿の500人広間に鳴り響き、才能あふれる若き演奏者は拍手喝采を浴びることになりました。

あの場でご挨拶をさせていただいた私は、日本とイタリアの音楽の架け橋となったマエストロ中川牧三と友達だったことをちょっぴり自慢気にお話し、さらに彼の思い出について言及した際には、とても感慨深いものがありました。

私達の交友がどれほど長きに渡ったことでしょうか。

始まりは、マエストロがたくさん若い日本人歌手を、イタリアへ連れていらっしたことでした。私が20年以上学長を務めたシエナのキジアーナ音楽院で、ジーノ・ペーキ、ジョルジョ・ファバレット、エットーレ・カンボガリアーニ、カルロ・ベルゴンツィなどといった有名講師たちの講座を受けさせるのが目的でした。

その長きに渡る生涯の中で、マエストロ中川牧三は、こうした講師たちと、ご自身がテノールの道を歩み始めた若かりし頃によくご存知だったベルカントの伝説的な存在、ベニアミーノ・ジーリヤティート・スキーパ、アウレリアーノ・ペルティレたちの世代の橋渡し役となりバトンを渡されました。

また、イタリアの音楽とオペラをこよなく愛していらっしたマエストロは、マリオ・デル・モナコやレナータ・テバルディ、そしてマグダ・オリヴェーロのような永遠の歴史のスターとも懇意にされていました。

現在、そのリレーのバトンは、中川くにこ様に託されております。

最もふさわしく、最も愛情深いその手の中に。

ルチアーノ・アルベルティ

Sono passati molti anni da quando si è celebrato il gemellaggio tra Firenze e Kyoto: cioè tra una delle capitali della cultura italiana e una delle capitali della cultura giapponese. Il segno comune più evidente agli occhi dei contemporanei è certo la grande bellezza delle due città.

La bellezza salverà il mondo. Quante volte sentiamo evocare questa "profezia" di Fjodor Dostojewsky. Infatti, è probabilmente la più attuale delle profezie. Diamo dunque voce alla bellezza.

E la musica, appunto, è la voce della bellezza.

Così noi guardiamo all'immenso arco musicale tra l'Italia e il Giappone, che, nel ricordo indelebile del Maestro Nakagawa, si rinnova di continuo, come all'anima di quel fenomeno che caratterizza la nostra epoca e che si chiama globalizzazione. Sappiamo bene che le basi di esso consistono nelle leggi dell'economia. Ma sappiamo anche che non c'è da temere nessun rischio di aridità, se si riesce ad alimentare - nelle giovani e nelle giovanissime generazioni - il culto della musica, in quanto voce della bellezza che ci salva

Luciano Alberti

オペラ歌手を育てるコンクールとして歴史を知られる「イタリア声楽コンクール」は、世界的に活躍されている大マエストロとコンコレンテ(参加者)が直接ふれあうことができるコンクール、育てるためのコンクールを目指して、審査方法や開催形式にこだわり、わが国の才能の宝を大切に育てることに力を注いでいます。入選者や受賞者は大きな経験を積む国際舞台へと導かれ、才能が育まれるための多種多様な機会が与えられます。

コンクールは厳しく冷たい競争の場ではなく、優美な気持ちで堂々と力を発揮していただく、そして才能をのばすために、のびのびと世界的なマエストロ方と直接コンシリオなどについて会話ができるという、従来のコンクールとはひと味違ったコンクールを目指しています。

幅広い層の方にこのコンクールを通じて、技の追求と同時に国際感を広げていただき、音楽の尊さと演奏の喜びを芯から学び感じていただくことができますことを希っています。

マエストロ・ナカガワが「105年の人生をかけて築いたキャリア」によって培われたイタリアの貴重な人脈の遺産は、今尚、大きなうねりとともにわが国のアーティストの為に動きはじめています。

グラン・マエストロの築いたイタリアと日本の絆が益々深まり、発展を遂げるようにとイタリア屈指の各界の方々、特別の力で支え後押しして下さっています。

「イタリア声楽コンクール」の入賞者は、それらの恩恵に浴し歴史と芸術の宝庫イタリアの世界文化遺産に於いてレベルの高い音楽や芸術性を感得できる特別なチャンスが与えられます。

基本を極め、技巧を磨き、
輝く響きと鮮明なライン、
深い思いやりと人間力、国際力を高めて
心を打つ、人を感動させる、
優しい感性が香を放つ、
そんな表現のできる芸術家を目指していただきたいと希っています。

中川くにこ



中川 くにこ
Ma.Cunico NAKAGAWA

第43回「イタリア声楽コンクール」
総務委員長
一般社団法人
日本イタリア協会
理事長

2012.Gen. アニエッリ・ホール



東京芸術劇場 2002



松本耕司氏 (株)松下電器産業 社会文化グループ マネージャー
シエナ大賞/杉谷直信
ミラノ大賞/小山敦子 金賞/浅原孝夫、阿野康子
M^o. 中川牧三, M^o. バコーチェビッチ M^o. レアーレ, G.トゥリッチーノイタリア公使

CONCORSO DI LIRICA ITALIANA

Memoria in Italia2013

受賞者は世界史に残るイタリア世界文化遺産・重要建築(宮殿・遺跡)舞台で毎年開催される国際フェスティバルでの演奏機会が与えられます
2013年7月にはフィレンツェ(ヴェッキオ宮殿 五百人広間・ダンテの家)・ヴィツェンチア(テアトロ・オリンピコ)・ミラノ(クザーニ宮殿)・ヴェローナ(国立音楽院)にて開催され、演奏と芸術が融合した素晴らしい芸術祭として幕を閉じました。



世界遺産「テアトロ・オリンピコ」、ヴェッキオ宮殿「五百人広間」をはじめ、全イタリア五ヶ所の国際フェスティバルでは満員の客席の前で日本代表が堂々と演奏。何ものにも代え難い貴重な体験と誉れに…。

2013年7月

イタリアを代表する世界文化遺産・重要文化財の国際舞台において日本全国から選出された才能溢れる若き音楽家達がレベルの高い演奏を大舞台において堂々と披露しました。音楽に造詣深いイタリア人の心に深く響いた名演奏は日本とイタリアの文化の絆がしっかりと結ばれた感動的な瞬間となりました。

イタリア名門5か所で開催された国際フェスティバル芸術祭は、イタリア外務省 EU Direttore Generale 閣下 (前駐日イタリア大使)、国立音楽院学長、Milano ヨーロッパ NATO 最高位將軍閣下、ミラノ公爵、ミラノスカラ座関係者、在ミラノ日本領事など、各所大勢のVIPに見守られる中、連日満員のお客様に温かく包まれて喝采をうけました。

この日、第4回となったイタリア国際フェスティバル「イタリア世界遺産芸術祭」は、日本とイタリアの親交が深まった重要な機会であり、日本人の芸術文化力でイタリア人を感動させ、親近感と同時に文化力のレベルの高さを直接伝えることができた素晴らしい国際外交であったことを確信いたします。世界史に残る大舞台における貴重な体験の場を今後も継続して提供し、わが国の情操豊かな国際力を併せもつ優秀な人材を育むためにも、憤ましく努力する日本の美徳を誇りながら、芸術の宝庫イタリアと日本を結ぶ文化の懸け橋となって、更なる国際交流を繋げて参りたいと存じます。



毎年イタリアでの注目が非常に高く新聞の一面を飾っています。2012年の記事では、イタリアオペラ界の最重鎮であるマエストゥラ マグダ・オリヴェーロのお姿も。著名音楽家だけでなく前駐日イタリア大使閣下やミラノ侯爵、NATO 最高位將軍閣下など通常では考えられないほどのVIPに多数ご来賓頂き、華々しく開催されました。

イタリアオペラの最重鎮
マエストゥラ マグダ・オリヴェーロと共に…

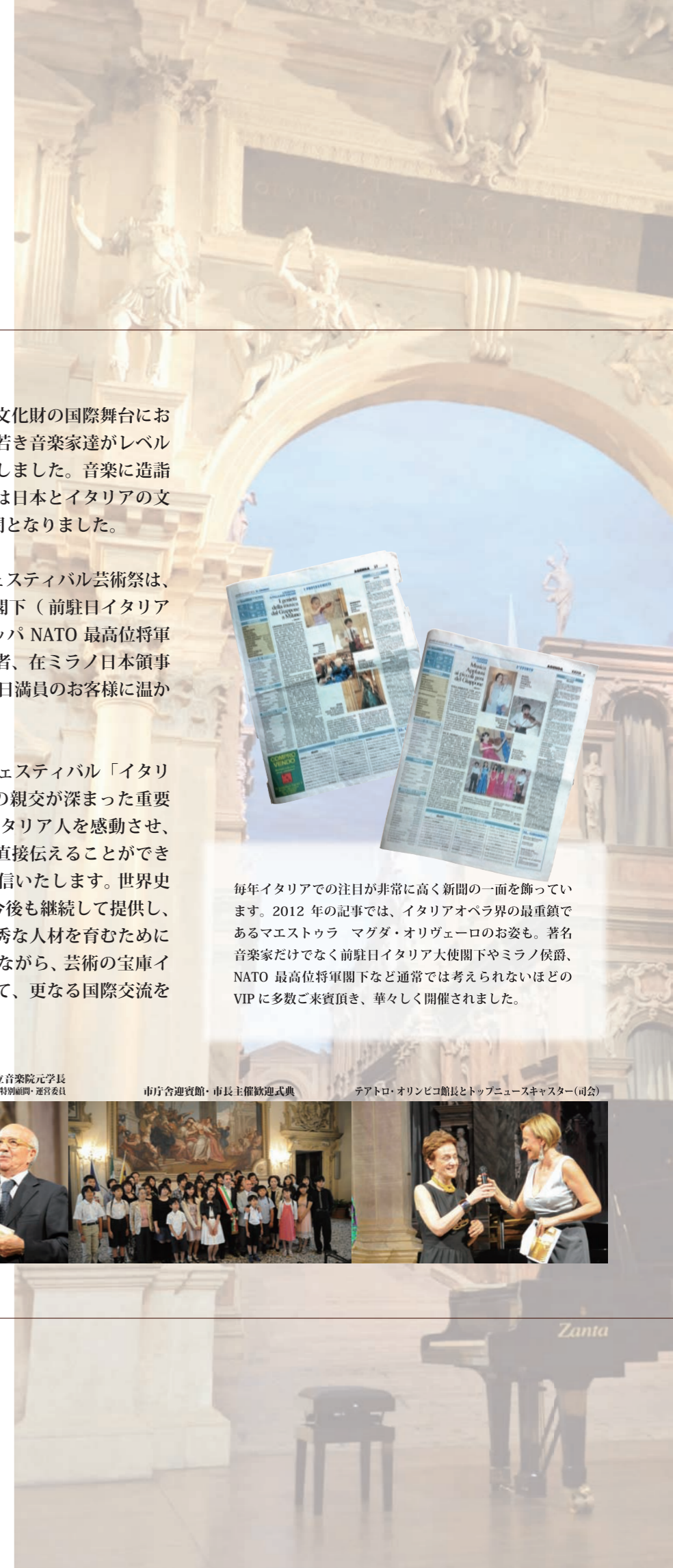


ボローニャ国立音楽院元学長
日本イタリア協会 特別顧問・運営委員



市庁舎迎賓館・市長主催歓迎式典

テアトロ・オリンピコ館長とトップニュースキャスター(司会)



経験し、体感し、学び、愉しみ…。 日本国内でも音楽家としての成長を支援。

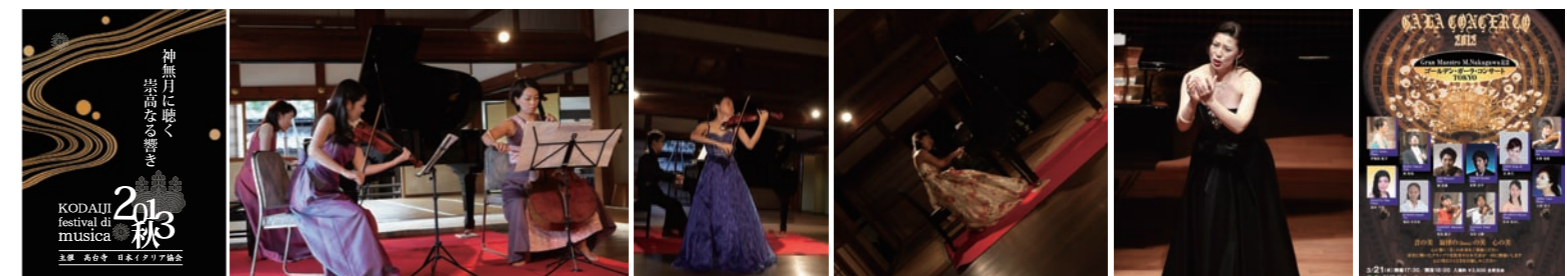
誰もが知っている京都の高台寺での演奏会、東京紀尾井ホールでのゴールデン・ガーラ・コンサートをはじめ、受賞者にはイタリアでの活動だけでなく日本国内でも様々な演奏機会が与えられ、経験を積むことでこれまでの受賞者たちも音楽家としての幅を広げています。このたびのコンクールでも、新たにそのチャンスを手に入れる音楽家がたくさん生まれる事を希ってやみません。



▲現フィレンツェ市庁舎であり、あまりに有名なイタリア屈指の世界文化遺産のひとつであるヴェッキオ宮でも開催。毎回、市をあげて支援頂いています。



▲ヴェッキオ宮殿内の「五百人広間」。天井やその周囲の壁面にいたるまで絵画で埋め尽くされ、圧倒的な存在感と悠久の時間を感じさせてくれる芸術空間です。



CONCORSO DI LIRICA ITALIANA イタリア声楽コンクール受賞者一覧

第1回(1970) ミラノ大賞 林 廣子 東京芸大音楽科卒業
シエナ大賞 黒田安紀子 大阪音楽大学卒業
伊国留学資金 林 廣子 東京芸大音楽科卒業
金 賞 浜渦 章盛 岩崎 好子 小林二美代(Batta)

第2回(1971) ミラノ大賞 秋定 典江 東京芸術大学卒業
シエナ大賞 林 誠 大阪音楽大学卒業
伊国留学資金 秋定 典江 東京芸術大学卒業
金 賞 岡田 綾女 松本 幸三 久村 民代
山本 悦子 北野 章子 藤原 敏子

第3回(1972) ミラノ大賞 鹿島 恵子 東京芸大ソロ・コース卒業
シエナ大賞 高木 鳩子 国立音楽大学大学院卒業
伊国留学資金 鹿島 恵子 東京芸大ソロ・コース卒業
金 賞 高須 礼子 長原 千代 布施久美子
特別招聘審査員 アレッサンドロ・シリアーニ氏
(ヴェルディ国際コンクール創設者)
ヴェルディ国際コンクール日本予選会を開催 予選入選者(故)並木加寿代 高井 和代 高木 鳩子

第4回(1973) ミラノ大賞 小林 一男 国立音楽大学卒業、大学院オペラ科修了
シエナ大賞 本間 操 大阪音楽大学卒業、大学院オペラ科修了
伊国留学資金 小林 一男 国立音楽大学卒業、大学院オペラ科修了
金 賞 出口 正子 瀬野 光子 間 紀美子 阪上 和夫

第5回(1974) ミラノ大賞 桑原 英子 国立音楽大学3年在学中
シエナ大賞 横山あけみ 国立音楽大学大学院修了
金 賞 佐久間伸一 郡司 忠良 永田 順子 佐藤 久子

第6回(1975) ミラノ大賞 安芸 栄子 大阪音楽大学卒業
シエナ大賞 加藤 順子 同志社女子大学卒業
ソプラノ特賞 加藤 順子 同志社女子大学卒業
テノール特賞 永沢 三郎 国立音楽大学卒業

第7回(1976) ミラノ大賞 渡辺 葉子 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 本宮 寛子 東京芸術大学卒業
ソプラノ特賞 仁禮 義子 大阪教育大学特音大学院修了
テノール特賞 (故)山路 芳久 東京芸大大学院修了
金 賞 黒崎鎌太郎 中井理映子 藤川賀代子

第8回(1977) ミラノ大賞 福島 慶子 大阪音楽大学卒業
シエナ大賞 白井由利子 国立音楽大学大学院修了
テノール特賞 塩崎 肇 大阪音楽大学専攻科卒業
金 賞 西松富美子 蓮井 求道

第9回(1978) ミラノ大賞 斉藤 言子 神戸女学院大学卒業
シエナ大賞 清水 まり 国立音楽大学卒業
テノール特賞 藤原 章雄 東京芸大音楽学部大学院修了
金 賞 藤井 久栄 安保 淑子 菊地 由子
五日市田鶴子

第10回(1979) ミラノ大賞 亀川 敬子 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 伊藤真理子 大阪芸術大学卒業
テノール特賞 原田 研一 東京芸術大学卒業
イタリア大使杯 亀田 敬子 国立音楽大学卒業
金 賞 田中 淳子 中沢 幸子 橋 茂
福田 訓子 翁長 剛 遠藤 照代

第11回(1980) ミラノ大賞 松本 和子 東京芸術大学大学院修了
シエナ大賞 安保 淑子 大阪音楽大学大学院修了
テノール特賞 日高 好一 洗足音楽大学卒業
金 賞 芦原 昌子 深津百合子 片桐 仁美
山本 裕之 半場俊一郎

第12回(1981) ミラノ大賞 横井真知子 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 稲垣 久美 東京芸術大学卒業
テノール特賞 前田 昭文 国立音楽大学卒業
金 賞 菊地 由子 大田 実
特別招聘審査員 ジュリエッタ・シモナート女史

第13回(1982) ミラノ大賞 井戸 靖子 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 加納 堅志 東京芸術大学卒業
テノール特賞 加納 堅志 東京芸術大学卒業
金 賞 川上容雅子 萩原 徳子 矢島 恵

第14回(1983) ミラノ大賞 成田 勝美 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 五十嵐 修 武蔵野音楽大学卒業
テノール特賞 五十嵐 修 武蔵野音楽大学卒業
イタリア大使杯 渡辺 典子 武蔵野音楽大学卒業
金 賞 柳田 孝子 立原ちえ子

第15回(1984) ミラノ大賞 宮崎 敦子 相愛大学卒業、同研究科卒業
シエナ大賞 沢脇 達晴 愛知県立芸術大学卒業、東京芸大大学院修了
テノール特賞 蔵田 雅之 東京芸術大学卒業、同大学院卒業
イタリア大使杯 角田 和弘 国立音楽大学卒業、同大学院在学中
金 賞 菊地 貴子 垣花 洋子 蘭 和美
羽根田宏子 伊江 朝明

第16回(1985) ミラノ大賞 角田 和弘 国立音楽大学卒業、同大学院修了
シエナ大賞 牧野 正人 国立音楽大学卒業、同大学院在学中
テノール特賞 小林 彰英 東京芸術大学卒業、同大学院修了
イタリア大使杯 今坂 佳子 国立音楽大学卒業、同大学院在学中
金 賞 伊藤 直美 水野 貴子

第17回(1986) ミラノ大賞 蘭 和美 大阪音楽大学卒業
シエナ大賞 柳澤 涼子 洗足学園大学卒業、東京芸大大学院修了
テノール特賞 田代 誠 東京音楽大学卒業、同大学研究科卒業
イタリア大使杯 古元万夕美 相愛大学卒業
金 賞 斉藤 幸一 吉田 美保 芝池 龍蔵

第18回(1987) ミラノ大賞 謝花美也子 東京芸術大学卒業
シエナ大賞 2位 福井 敬 3位 小渡恵利子
シエナ大賞 2位 下原千恵子 国立音楽大学大学院修了
テノール特賞 古元万夕美 3位 南雲 英代
イタリア大使杯 福井 敬 国立音楽大学大学院修了
特別招聘審査員 山田 正文 名古屋芸術大学卒業
カルロ・ベルゴンツイ氏

第19回(1988) ミラノ大賞 大貫 史郎 東京芸術大学卒業
シエナ大賞 塩田美奈子 国立音楽大学卒業
テノール特賞 井ノ上志郎 国立音楽大学卒業
イタリア大使杯 村井 幹子 相愛大学卒業
金 賞 村 俊英 山崎 美奈 山本 理絵
長田 安世

第20回(1989) ミラノ大賞 福井 敬 国立音楽大学卒業
シエナ大賞 川原 敦子 東京音楽大学卒業
テノール特賞 井ノ上了史 国立音楽大学卒業
イタリア大使杯 藤川 泰彰 国立音楽大学卒業
金 賞 妻屋 秀和 経種 康彦 小澤 玲子

第21回(1990) ミラノ大賞 堀内 康雄 慶應義塾大学卒業
シエナ大賞 高橋 薫子 国立音楽大学卒業
イタリア大使杯 庄 智子 上野学園大学卒業
金 賞 飯田実千代 佐藤 泰弘
東 知恵子 雑賀 美可

第22回(1991) ミラノ大賞 大間知 覚 国立音楽大学卒業、同大学院修了
シエナ大賞 小渡恵利子 東京芸術大学、同大学院修了
イタリア大使杯 内田 基美 国立音楽大学、同大学院修了
金 賞 三原 剛 志村 文彦 田島 達也

第23回(1992) ミラノ大賞 佐野 成宏 東京芸術大学卒業、同大学院在学中
シエナ大賞 竹野 宏一 武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了
イタリア大使杯 大槻 裕加 国立音楽大学卒業、同大学院修了
金 賞 斉藤 紀子 深谷 之恵

第24回(1993) ミラノ大賞 五月女智恵 東京芸術大学卒業、同大学院在学中
シエナ大賞 小鉄 和広 東京芸術大学卒業、同大学院修了
テノール特賞 加茂下 稔 武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了
イタリア大使杯 松本 薫 武蔵野音楽大学卒業
金 賞 梅原 光洋 櫻田 亮

第25回(1994) ミラノ大賞 安本 実子 相愛大学卒業、同研究科修了
シエナ大賞 佐々木美加 国立音楽大学卒業、同大学院修了
テノール特賞 小餅谷哲男 大阪音楽大学卒業、同大学院修了
イタリア大使杯 李 恩敬 武蔵野音楽大学在学中
金 賞 長谷川ゆり 福島 紀子

第26回(1995) ミラノ大賞 森 麻季 東京芸術大学卒業、同大学院修了
シエナ大賞 畔柳 幸代 国立音楽大学大学院修了
イタリア大使杯 平山三起子 名古屋芸術大学卒業
金 賞 谷口 伸 櫻井 孝子
特別招聘審査員 マルチェロ・アッパード氏 イレーン・デューク女史
イーゴル・チチャーゴフ氏

第27回(1996) ミラノ大賞 黒原 利夏 大阪音楽大学卒業
シエナ大賞 梶田 亮 東京芸術大学大学院在学中
テノール特賞 松本 薫平 東京芸術大学卒業
イタリア大使杯 小西 潤子 大阪芸術大学卒業
金 賞 小林 菜美 国立音楽大学大学院修了
特別招聘審査員 マルチェロ・アッパード氏
ピエール・ミランダ・フェラーロ氏

第28回(1997) ミラノ大賞 武内 亜希 大阪音楽大学大学院在学中
シエナ大賞 六車 智香 大阪音楽大学卒業
イタリア大使杯 森田 雅美 国立音楽大学卒業
金 賞 国吉真理絵 沖縄県立芸術大学大学院在学中
特別招聘審査員 マルチェロ・アッパード氏 ルチアーノ・アルベルティ氏
エウゼニオ・フルロツティ氏

第29回(1998) ミラノ大賞 鈴木 慶江 東京芸術大学大学院在学中
シエナ大賞 甲斐栄次郎 東京芸術大学大学院修了
イタリア大使杯 油谷 充 国立音楽大学大学院修了
金 賞 生駒 純子 相愛大学音楽学部卒業
寺内 智子 大阪音楽大学専攻科修了
辰岩 弘子 東京音楽大学大学院修了
特別招聘審査員 ルイージ・ザナルディ氏
ビエトロ・ミランダ・フェラーロ氏

第30回(1999) ミラノ大賞 吉原 圭子 洗足学園大学附属オペラ研究所修了
シエナ大賞 古賀 明子 東京芸術大学大学院修了
イタリア大使杯 田邊 織恵 大阪音楽大学大学院在学中
金 賞 牧野真由美 東京芸術大学大学院修了
特別招聘審査員 佐竹しのぶ 奈良教育大学音楽学部大学院修了
マルチェロ・アッパード氏 カルミーネ・カッリージ氏

第31回(2000) ミラノ大賞 中島 康晴 東京芸術大学大学院1年在学中
シエナ大賞 呉 承容 イタリアsanta Cecilia在学中
テノール特賞 村上 敏明 国立音楽大学卒業
イタリア大使杯 中村 容子 相愛大学卒業、同大学研究科修了
金 賞 黒澤 明子 大阪芸術大学卒業
特別招聘審査員 マルチェロ・アッパード氏 カルミーネ・カッリージ氏

第32回(2001) ミラノ大賞 藤牧 正充 東京音楽大学研究生声楽オペラコース在学中
シエナ大賞 木下美穂子 武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了
イタリア大使杯 サイエンス・ユリ・マリヤ
金 賞 神戸女学院大学音楽学部卒業、マンハッタン音楽院修士課程修了
横野 綾 相愛大学音楽学部卒業、同研究科修了
特別招聘審査員 小林 由樹 国立音楽大学音楽学部声楽学科卒業
カルミーネ・カッリージ氏
ラドゥミラ・バコーチェヴィッチ氏

第33回(2002) ミラノ大賞 小山 敦子 同志社大学卒業、同大学特別専修生修了
シエナ大賞 杉谷 直信 武蔵野音楽大学卒業、同大学院音楽研究科終了
イタリア大使杯 松本 光紘 武蔵野音楽大学卒業
金 賞 浅原 孝夫 洗足学園大学卒業
阿野 康子 相愛大学卒業
特別招聘審査員 カルミーネ・カッリージ氏 ラドゥミラ・バコーチェヴィッチ氏

第34回(2003) ミラノ大賞 松本 光紘 武蔵野音楽大学卒業
シエナ大賞 藤田 幸士 武蔵野音楽大学卒業
イタリア大使杯 高田 恭代 国立音楽大学大学院修了
金 賞 横山 靖代 東京芸術大学音楽学部声楽科卒業
特別招聘審査員 マルチェロ・アッパード氏 カルミーネ・カッリージ氏

第35回(2004) ミラノ大賞 郷田 明倫 武蔵野音楽大学卒業
シエナ大賞 村上 敏明 国立音楽大学声楽科卒業
テノール特賞 川久保博史 東京芸術大学大学院修了
イタリア大使杯 伊藤 和広 東邦音楽大学卒業
金 賞 庄 智子 上野学園大学声楽学科卒業
原 拓也 島根大学卒業
石上 朋美 東京芸術大学大学院修士課程オペラ科修了
特別招聘審査員 カルミーネ・カッリージ氏 ヴィルマ・ヴェルノッキ氏

第36回(2005) ミラノ大賞 西村 悟 東京芸術大学大学院オペラ科在籍中
シエナ大賞 馬場 崇 東京芸術大学大学院オペラ科修了
ソプラノ特賞 佐藤 康子 東京芸術大学博士課程在学中
イタリア大使杯 長島 由佳 昭和音楽大学音楽学部声楽学科卒業
金 賞 下川 慶子 国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻オペラ在学中
林 満理子 東京芸術大学大学院修士課程オペラ科修了
特別招聘審査員 カルミーネ・カッリージ氏

第37回(2006) ミラノ大賞 榎 貴志 新国立劇場オペラ研修所第5期生修了
シエナ大賞 須藤 慎吾 国立音楽大学大学院声楽専攻オペラコース修了
ソプラノ特賞 藤谷佳奈枝 東京芸術大学音楽学部大学院修了課程オペラ専攻(在籍中)
イタリア大使杯 加藤 太郎 東京芸術大学大学院修士課程オペラ科在籍中
金 賞 笛田 博昭 名古屋芸術大学大学院修了
加藤 利幸 横浜国立大学中退
大石 洋史 昭和音楽大学大学院オペラ専攻修了
鐘 皓 中国中央音楽学院卒業、東京芸術大学大学院在学中
特別招聘審査員 カルミーネ・カッリージ氏

第38回(2007) ミラノ大賞 芹澤 佳通 国立音楽大学声楽科卒業
シエナ大賞 鐘 皓 東京芸術大学音楽学 部オペラ科修士在 学中
ソプラノ特賞 上田 純子 国立音楽大学音楽研究科声楽専攻卒業
テノール特賞 加藤 利幸 リリカイタリアーナオペラ協会コレソ修了
イタリア大使杯 竹下みず穂 お茶の水女子大学在 学中
金 賞 藤原 海考 昭和音楽大学学 院オペラ専攻 修了
谷原めぐみ 東京芸術大学音楽研究科 声 楽オペラ専攻修士 在 学中
平川千志保 国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専 攻オペラ修了
特別招聘審 査員 カルミーネ・カッリージ氏 カーティア・ロローヴァ氏

第39回(2008) ミラノ大賞 山本 耕平 東京芸術大学大学院修士課程音楽研究科オペラ専攻
シエナ大賞 森 雅史 新国立劇場オペラ研修所修了
バリトン特賞 大西 宇宙 武蔵野音楽大学卒業
塩入 功司 洗足学園大学大学院音楽研究科声楽専攻
イタリア大使杯 水野 秀樹 愛知県立芸術大学
大西 宇宙 武蔵野音楽大学卒業
特別招聘審査員 塩入 功司 洗足学園大学大学院音楽研究科声楽専攻
カルミーネ・カッリージ氏

第40回(2009) ミラノ大賞 又吉 秀樹 東京芸術大学音楽学部 声楽科卒業
シエナ大賞 砂川 直子 東京音楽大学大学院オペラ研究科 声楽専攻修士課程修了
イタリア大使杯 藤原 未佳子 大阪音楽大学大学院音楽研究科 声楽 (オペラ)専攻修了
賞 竹下 みず穂 お茶の水女子大学大学院修了
三戸 大久 武蔵野音楽大学卒業
大石 洋史 昭和音楽大学大学院修了
特別招聘審査員 フランチェスコ・サヴェリオ・ボレルリ氏
カルミーネ・カッリージ氏 カーティア・ロローヴァ氏

第41回(2010) ミラノ大賞 田中絵里加 東京音楽大学大学院音楽研究科 声楽専攻オペラ研究領域修了
シエナ大賞 原田 勇雅 東京藝術大学音楽学部 声楽科卒業、同大学院 修了
イタリア大使杯 阪元 恵里 国立音楽大学声楽科卒業
金 賞 中村 洋美 東京音楽大学大学院オペラ科専攻修了
高橋 華子 ドイツ国立ミュンヘン音楽大学大学院歌曲科在籍中
伊藤 貴之 名古屋芸術大学大学院修了
乾 ひろこ フェリス女学院大学音楽学部声楽学科卒業
特別招聘審査員 仙藤 恵子 名古屋音楽大学大学院 音楽研究科声楽専攻修士課程修了
カルミーネ・カッリージ氏 パオロ・トロンコン氏

第42回(2011) ミラノ大賞 中畑有美子 昭和音楽大学卒業
シエナ大賞 城 宏恵 東京芸術大学音楽学部卒業(新国立劇場オペラ研修所第十期終了)
テノール特賞 内野 良平 アリーゴボイト国立音楽院(イタリア/バル)卒業
金 賞 坪内 麗音 国立音楽大学大学院音楽研究科声楽専攻修了
清水 実 東京大学大学院人文社会系研究科卒業
全 詠玉 国立音楽大学大学院声楽専攻オペラコース終了
イタリア大使杯 カルミーネ・カッリージ氏 アルベルト・クビード氏
特別招聘審査員 ダンテ・マツツォーラ氏

第43回(2012) ミラノ大賞 加藤 のぞみ 東京芸術大学大学院音楽研究科
シエナ大賞 千葉 裕一 修士課程(オペラ専攻)在学中
金 賞 藪田 瑞穂 国立音楽大学音楽学部声楽科卒業
特別招聘審査員 カルミーネ・カッリージ氏 アルベルト・クビード氏
ダンテ・マツツォーラ氏

